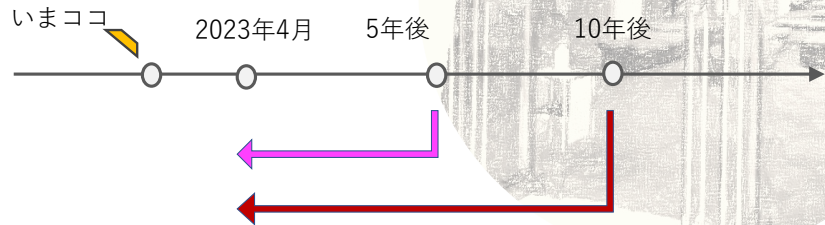


小山市中央生涯学習センターの 運営の「これから」

～【時間】と【協働による社会サービス】に着目して～



宇都宮大学 地域デザイン科学部 石井大一郎

自己紹介

主な教育・研究のフィールド： **栃木** **神奈川** **福島** **台湾**・ニュージーランド

専門：市民参加、地域自治

実務：生涯学習・市民活動センターの運営15年



問い

1. **中央**にある行政施設（生涯学習センター）の役割とは何？
2. 指定管理か行政直営か、**あるいは**それ以外の方法は？
3. 市民と行政の**協働**で生じる課題とその処方箋は？
4. . . .
5. 2歩先の**10年後**にはどのような姿があるの？

1. **中央**にある行政施設（生涯学習センター）の役割とは何か

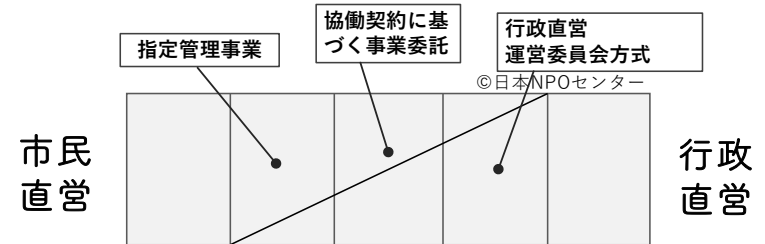
- (1) 専門性、広域性
- (2) 行政職員のスキルアップ
- (3) 他拠点の相談・支援
- (4) 資源（もの・人・金・情報・つながり）のつなぎ
- (5) アドボガシー（現場視点でよりよい政策・制度を実現する運動）

みなさんはどんな力を発揮してほしいと思いますか。

●行政の強み

●市民団体・民間の強み

2. 指定管理か行政直営化、あるいはそれ以外の方法か



行政職員と市民が共に育つ5年間とする。
→本気の協働が必須

協働には原則がある

今日は割愛♥

原則1：対等の原則

どちらかが下請けになってはならない。対等は新しい成果を生む。

原則2：相互理解の原則

互いの長所、短所や立場を理解しあうことで力を活かし合うことができる。

原則3：目的共有・相互評価の原則

協働して取り組む意義や目的を、都度確かめる。一緒に振り返りもする。

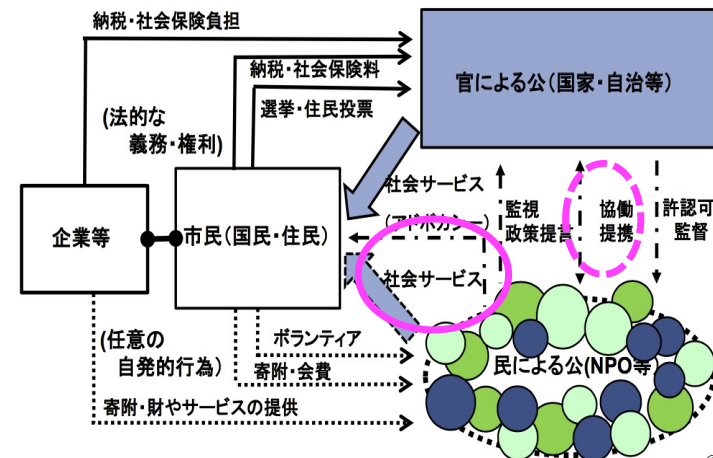
原則4：自主性・自立化の原則

それぞれの主体の自主性が大切である。また相互依存とならぬようにする。

原則5：公開の原則

一部の人たちの特別な活動にしてはならない。情報を広く公開する。

「官による公」と「民による公」の関係



3. 市民と行政の協働で生じる課題と処方箋はあるのか

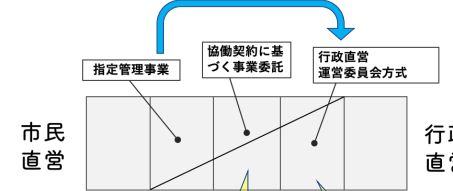
検証して分かった協働を進める上の課題 今日は割愛♥

- 1 行政内部の連携の促進
- 2 双方の組織特性についての理解
- 3 事業目的や受益者、事業評価等の考え方の相違の解消
- 4 受益者満足の測定
- 5 協働事業のプロセスの公開・発信
- 6 協働の相手方のマッチング
- 7 地域、関係機関との連携コーディネート
- 8 事業終了後の将来展望

これらを両者が共有することが不可欠。



小山市生涯学習センターを協働型で進める方法 (石井のつぶやき)



現行の指定管理制度で、p4に挙げた役割を果たせる事業者がいなければ、一旦、方法を改めた方がよい。

というか、現在の「生涯学習センター条例」は貸し館でよいことになっている。ガーン。

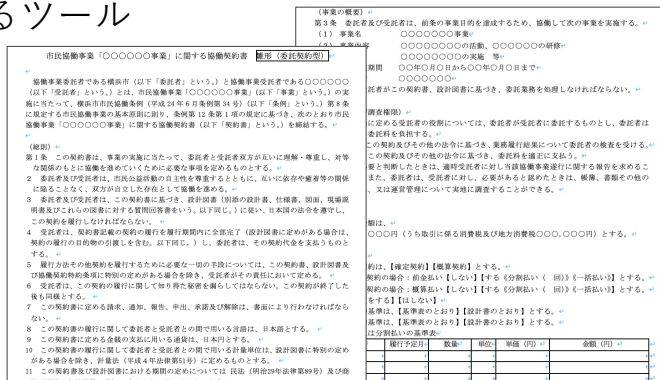
5年くらいは、行政と市民が共に目標を実現できる協働型がよいのではないか。

(5年の間に) p4の役割を担うことのできるNPO等を組織化し、事業委託。

貸し館・建物管理は民間に委託。事業企画・実施は、市民の力を生かしつつ、市が責任。

協働を進めるツール

【協働契約】



- 1. 役割分担や責任の所在の明確化されています。
- 2. 成果や著作権が契約書双方に帰属します。
- 3. 条項を見直したことに伴い、より協働に特化した内容の契約書となっています。

【協働チェックシート】

市民と行政の協働のためのチェックシート

協働を進めるためのチェックリストです。事業開始前、実施中、終了時の各段階で確認事項を記載しています。

事業開始前、実施中、終了時

協働を進めるためのチェックリストです。事業開始前、実施中、終了時の各段階で確認事項を記載しています。

私がWGメンバーとして作成しました。

【協働に関する 相互検証】

1 事業実施プロセス相互チェックシート

チェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、チェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	C
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	C
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	C

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	C

5.2 歩先の10年後にはどのような姿があるの？

ビジョン

新しい小山型生涯学習を理解した、メンバーが集まった団体が誕生し、行政と協働運営ができています。

生涯学習を基盤とし、福祉・地域振興・移住定住など暮らしに関する多様な分野の連帯ができています。

